

SEIKO

2013年3月期 年次報告書
2012年4月1日～2013年3月31日

Report



1913

次の100年が動きだす。

100 CELEBRATING
100 YEARS OF
SEIKO WATCHMAKING



2013

左：国産初の腕時計「ローレル」
右：世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコーアストロン」

セイコーホールディングス株式会社

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに当社2013年3月期の年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

今年は当社が国産初の腕時計「ローレル」を発売してから100年目の節目にあたります。くしくも昨年9月から発売を開始した世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロン」の販売が好調で、グローバルに活躍するビジネスマンを中心に高い評価をいただいております。「セイコー アストロン」は、GPS衛星からの位置情報と時刻情報を受信することで、地球上どこでもボタン操作ひとつで所在地の正確な時刻を表示する画期的な製品であり、私たちは「セイコー アストロン」を腕時計の新たなデファクトスタンダードに育てたいと考えております。

一方、この4月、システムソリューションの専門会社として、セイコーソリューションズ株式会社の営業を開始いたしました。今後は、システム関連で従来から実績を持つセイコーインスツルとセイコーソリューションズとが一体となって、モバイル技術やネットワーク技術を進化させ、医療やエネルギーなど、これから社会でより重要となる分野を視野に入れながら、商品・サービスの開発に全力を挙げてまいり所存です。

2014年3月期から始まる「第5次中期経営計画」では、長年にわたり時計製造で培った技術力、革新と洗練で築き上げてきたブランド力などの強みを活かし、事業収益の最大化を目指すとともに、将来にわたる成長基盤の確立を進めてまいります。

株主の皆さまには、今後も一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年6月



代表取締役会長 兼 グループ CEO
服部 真二



代表取締役社長
中村 吉伸

■ 2013年3月期の取り組みと成果

2013年3月期のわが国の経済は、日中関係の悪化などを背景として輸出は減少し、企業の設備投資に回復の兆しは見られませんでした。第4四半期以降、アベノミクス効果により為替環境が改善し、株式市場も大きく回復いたしました。世界経済では、欧州は緊縮財政や雇用・所得環境の悪化によりマイナス成長となりました。一方、米国経済は、雇用の回復ペースは緩やかですが、リーマン・ショック後に悪化した住宅市場は改善基調を強めています。また、中国経済は、政府による景気刺激策により成長が維持されました。

当社の当期の連結売上高は、前期より131億円減少し、2,837億円(前期比4.4%減)となりました。ウォッチ事業は国内で大幅に売上高を伸ばし、海外でも順調に推移しました。一方、電子部品等事業では、電子デバイスの市況低迷等により大きく売上を落としました。クロック事業および眼鏡事業でも売上高は減少しております。連結で国内売上高は1,453億円、海外売上高は1,384億円となり、海外売上高割合は48.8%(前期は49.3%)となりました。

利益面では、電子部品等事業の売上減とそれにとまなう生産調整等の影響により、営業利益は前期比12億円減少の55億円に留まりました。営業外収支が為替差益の計上等により改善したことで、経常利益は前期より19億円増加し、32億円となりました。投資有価証券売却益、受取保険金および負ののれん発生益など、130億円を特別利益に計上する一方、電子部品等事業などにおける減損損失、災害による損失および退職特別加算金など、82億円を特別損失に計上し、当期純利益は55億円(前期は当期純損失110億円)となりました。

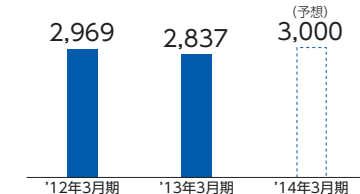
■ 2014年3月期の見通し

世界経済は、米国で個人消費の持ち直しなどによる回復基調の継続が期待され、アジアにおいても中国経済が景気刺激策により大幅ではないものの安定的な成長をする見通しであり、全体として緩やかに回復が続くと思われます。また、日本経済は、株式市場や為替環境の改善等に加え、消費税率引き上げ前の駆け込み需要などの影響もあり、回復が次第に確実なものとなっていくと思われます。

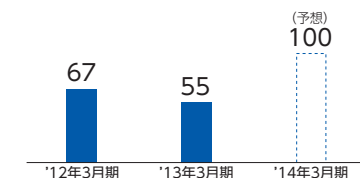
このような事業環境の中、当社はウォッチ事業で国内外での売上・利益を伸ばすとともに、電子デバイス事業等では為替環境の改善、市況回復を背景にしつつ競争力のある商品の投入などにより業績回復を図ってまいります。

財務ハイライト

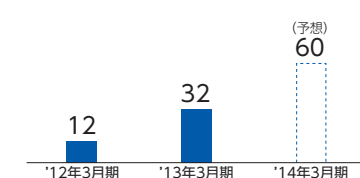
売上高 (億円)



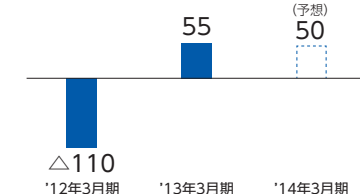
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



当期純利益 (億円)



ウォッチ事業

売上高 **1,210** 億円

おもな製品 ウォッチ、ウォッチムーブメント

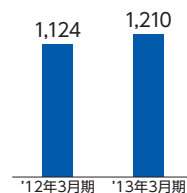
売上高は前期比85億円増加の1,210億円(前期比7.6%増)、営業利益は前期比4億円増加の78億円(同6.7%増)となりました。

国内では、テレビ・新聞広告を中心とした宣伝効果などにより高価格帯商品である「グランドセイコー」、[クレドール]をはじめ、中低価格帯商品のレディースウォッチ「ルキア」やメンズウォッチ「ブライツ」など幅広い価格帯で売上を前期より伸ばしました。2012年9月に発売した世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロン」は海外市場を含め、好調な売れ行きとなっております。海外では、市場のニーズを捉えた商品ラインの積極展開などにより中国をはじめとしたアジア諸国や南米向けの売上が好調を維持しました。また、スペインの名門サッカーチームであるFC Barcelonaとのパートナーシップ契約による商品と連動させた宣伝販促活動などが引き続き好調で、欧米でも前期を上回る売上となりました。ウォッチムーブメント販売は欧州を中心に市況が低迷する中、若干の落ち込みに留めております。



グランドセイコー

売上高推移 (億円)

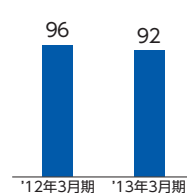


クロック事業

売上高 **92** 億円

おもな製品 クロック

売上高推移 (億円)



携帯電話・スマートフォン充電対応 防災クロック SQ764W

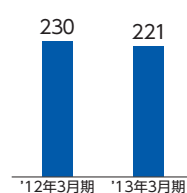
売上高は92億円(前期比3.6%減)、利益は営業損失5億円(前期は営業損失3億円)となりました。タイの洪水の影響による生産遅延などで国内、海外ともに前半は出遅れましたが、後半は回復傾向となっております。

眼鏡事業

売上高 **221** 億円

おもな製品 眼鏡レンズ・フレーム

売上高推移 (億円)



高付加価値単焦点レンズ A-ZONE

売上高は221億円(前期比3.7%減)、営業利益は前期とほぼ同水準の2億円(前期比9.6%減)となりました。

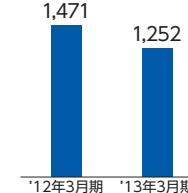
国内では、世界初のクロスサーフェス設計®(両面制御設計)の「セイコー パシュートPV」や高付加価値単焦点レンズが好調を維持したものの単価下落により伸び悩みました。海外では、米国は内面累進レンズが伸びましたが、全体では前期を下回りました。欧州では大手チェーン向けが堅調に推移しました。

電子部品等事業

売上高 **1,252** 億円

おもな製品 半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネント、カメラ用シャッター、データサービス、電子辞書、情報ネットワークシステム

売上高推移 (億円)



売上高は1,252億円(前期比14.9%減)となり、売上高の減少にともない収益性も悪化し、営業損失15億円(前期は営業利益13億円)となりました。

パソコン、従来型携帯電話、薄型テレビおよびデジタル一眼レフカメラ等の市況低迷により、電子デバイス、メカトロニクスデバイスともに落ち込みましたが、第4四半期に入り、電子デバイス等の受注は回復傾向にあります。システムアプリケーションでは移動通信関連機器が順調に売上を伸ばし、また、放射線測量機器も好調を維持しました。第4四半期に科学機器事業の子会社を譲渡したことも売上高減少の要因となっております。



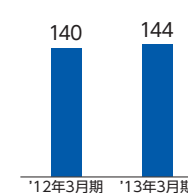
左 Wi-Fiルーター ULTRA WiFi 4G SoftBank 101Si
右 食品・環境放射能測定装置 SEG-EMS

その他の事業

売上高 **144** 億円

おもな製品 高級服飾・雑貨品、設備時計、スポーツ計時機器、不動産賃貸

売上高推移 (億円)

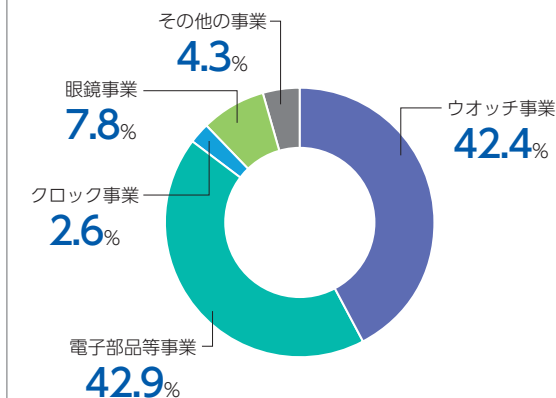


和光 本館3階(婦人用品)

売上高は144億円(前期比3.0%増)、営業利益は2億円(前期は営業損失4億円)となりました。ウォッチ、婦人用品を中心に和光本館の売上は順調に推移し、設備時計・スポーツ計時機器の売上も前期を上回っております。

事業別売上高構成比

(2013年3月期)



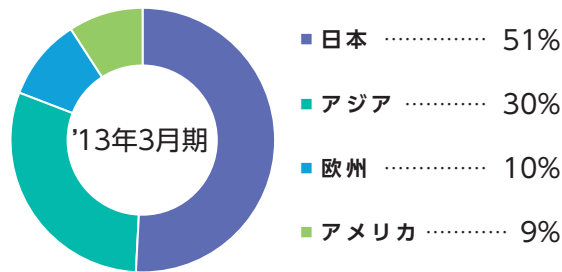
※上記の比率は、各事業間の内部売上高又は振替高調整後の数値に基づき算出しております。

連結貸借対照表

単位：億円未満切り捨て

科目	当期末 2013.3.31現在	前期末 2012.3.31現在
【資産の部】		
流動資産	1,568	1,750
固定資産	1,984	2,110
資産合計	3,553	3,861
【負債の部】		
流動負債	1,948	2,064
固定負債	1,196	1,476
負債合計	3,145	3,541
【純資産の部】		
純資産合計	408	319
負債純資産合計	3,553	3,861

地域別売上高構成比



国内ではウォッチ事業が売上高を伸ばし、電子部品等事業が売上高を落としました。海外では、ウォッチ事業は順調に推移しましたが、電子部品等事業が、特にアジアで売上を落としました。

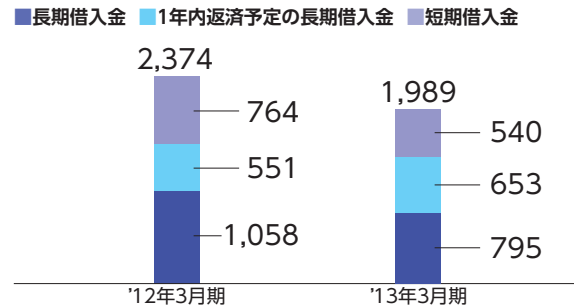
連結損益計算書

単位：億円未満切り捨て

科目	当期 2012.4.1から 2013.3.31まで	前期 2011.4.1から 2012.3.31まで
売上高	2,837	2,969
売上総利益	870	901
営業利益	55	67
経常利益	32	12
特別利益	130	79
特別損失	82	140
税金等調整前当期純利益	80	△47
当期純利益	55	△110

借入金残高

(億円)



1年内返済予定の長期借入金が101億円増加しましたが、短期借入金および長期借入金合計で486億円減少し、借入金残高は合計で1,989億円となり、中期経営計画目標値の2,000億円以下を達成しました。

※借入金残高…長期借入金+短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

第5次中期経営計画スタート

2014年3月期 → 2016年3月期

当社は「社会に信頼される会社であること」を引き続きグループ経営の基本理念とし、新たに2014年3月期を初年度とする3か年計画である第5次中期経営計画を策定しました。

基本方針

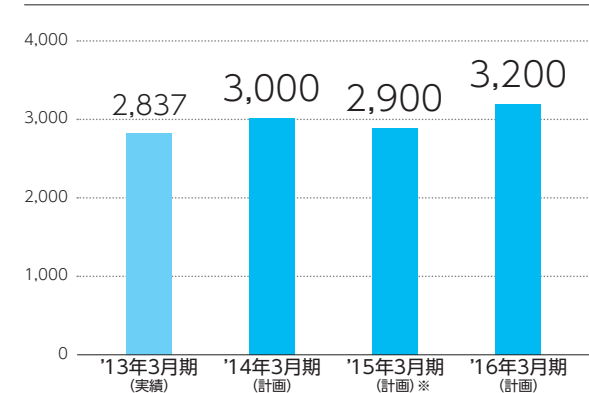
事業収益の最大化に向けてウォッチ事業を中核に
事業ポートフォリオを再構築すると共に、経営基盤の質的強化を実現する

● 中期経営計画目標数値



売上高

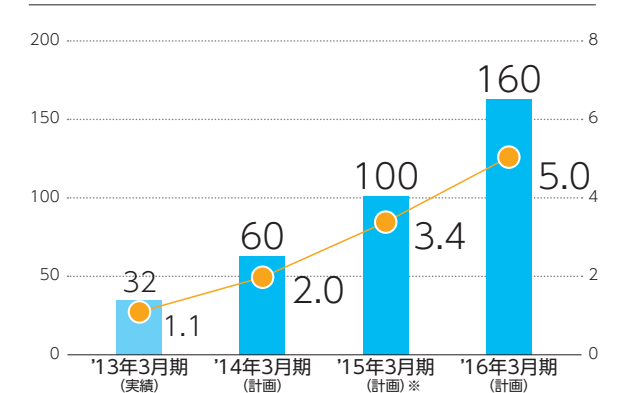
(億円)



※'15年3月期以降、眼鏡事業が当社連結対象外となります。

経常利益 / 経常利益率

(億円 / %)



■ 中期経営計画基本方針

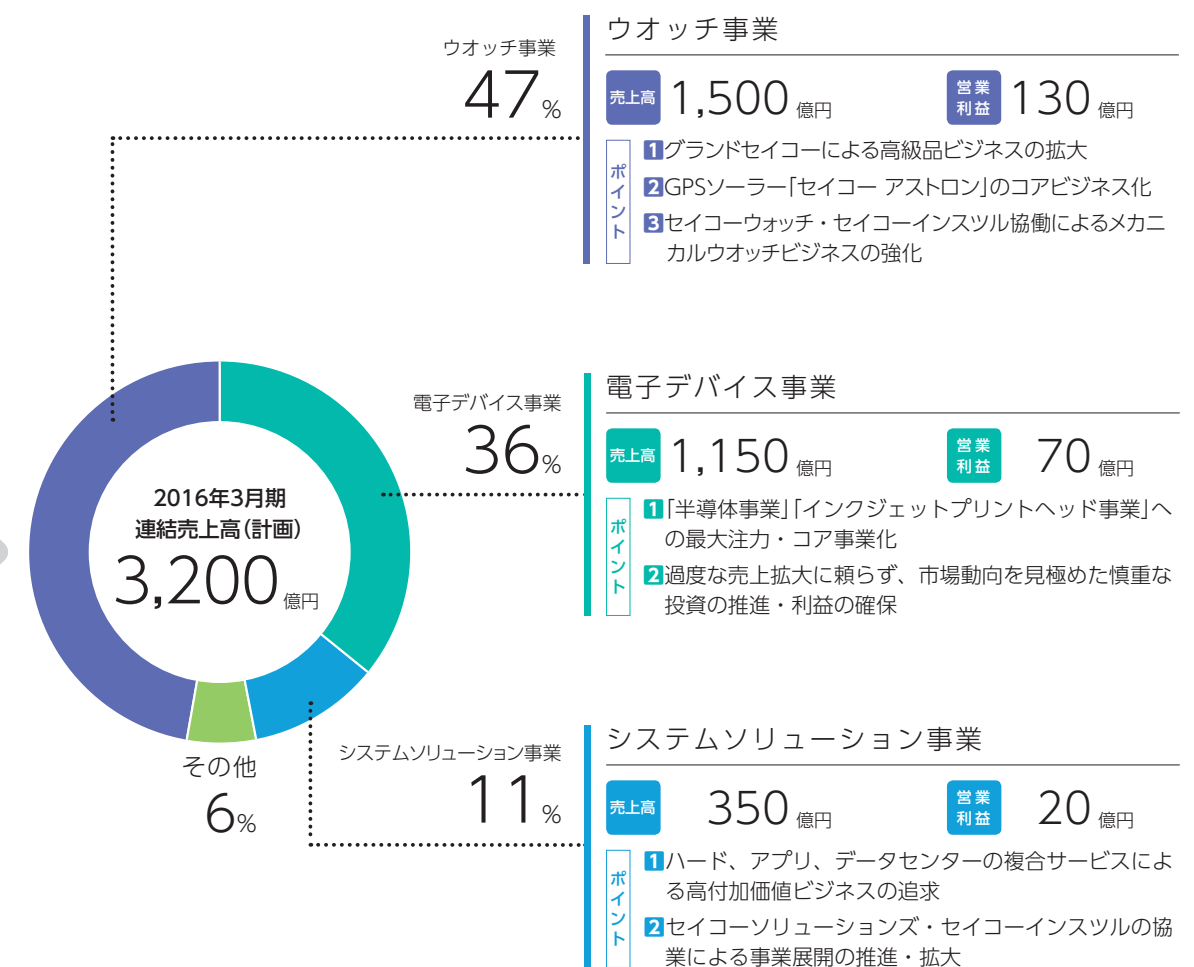
基本方針1 事業収益の最大化

- 1 **グループの基盤事業であるウオッチ事業の強化・拡大**
完成品ビジネス、ムーブメントビジネスの総合力を發揮した戦略実行による収益の最大化
- 2 **電子デバイス事業はコアビジネスへの集中**
時計をベースにした「匠、小、省」の技術を最大限活かしながらコアとなる事業分野に資源を集中し、安定的な収益構造を確立
- 3 **第3の柱としてシステムソリューション事業を育成**
セイコーソリューションズ(株)を核とし、グループが保有するリソースを活用した付加価値の高いソリューション提案ビジネスを育成
- 4 **セイコーブランドを有効活用したビジネス展開の拡大**
各種製品におけるブランド活用を一層強化すると共に、ブランドイメージ・認知度向上に向けた活動の継続

基本方針2 経営基盤の質的強化

- 1 **財務体質の改善**
さらなる有利子負債の削減と自己資本比率の改善を実現
- 2 **持株会社の役割強化**
持株会社によるグループ経営上の戦略的意思決定及び事業会社サポート機能の強化
- 3 **人財活用の促進**
事業の持続的成長に向けた人財育成やグループ横断的な人財交流の仕組み作り

■ セグメント別基本戦略



セグメントの変更について 従来の電子部品等事業を半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネントおよびカメラ用シャッタ等を取り扱う電子デバイス事業と、データサービス、電子辞書、情報ネットワークシステム等を取り扱うシステムソリューション事業に区分します。ウオッチ事業、電子デバイス事業およびシステムソリューション事業を報告セグメントとして開示し、クロック事業、眼鏡事業、その他の事業は「その他」として一括して区分します。

デザイン展

[Seiko Design Project2012]開催



2012年12月6日から12日まで、銀座 和光でデザイン展「Seiko Design Project2012」を開催しました。

「時のカタチ 間のカタチ」をテーマとし、グループ内のデザイナーから募集した120を超える作品の中から、新しい発想とデザインに満ちた10点を選び展示しました。世の中の価値観がモノからコトに移る中、さまざまな「時」の表情や「間」の概念をバラエティー豊かなアイデアの「カタチ」として表現し、多くの方にお楽しみいただきました。

期間中は、独自の視点・センスとユーモアで人気の歌人 穂村弘さんによる「時と間」に関するトークショーも行いました。

名誉会長 服部禮次郎

「お別れの会」開催



弊社名誉会長 服部禮次郎が2013年1月22日92歳にて逝去いたしました。生前のご厚意を深謝して開催した「お別れの会」には、多くの方々にご参列いただきました。

故人は、昭和39年の東京オリンピックで電子計時システムを導入し全世界を驚かせるなど、世界にセイコーブランドの認知を高め、グローバル企業への足がかりをつくりました。その功績を振り返り、主催者代表として、グループCEO 服部真二が、「故人が追求したセイコーブランドのビジョンである『革新と洗練』を永遠のテーマとして、休むことなく前進していかねばならない」と追悼の辞を読み上げました。

■ 会社情報

会社概要

社名	セイコーホールディングス株式会社
創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	95名(単体) 14,712名(連結)
本店所在地	〒104-8129 東京都中央区銀座四丁目5番11号
本社所在地	〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号 虎ノ門15森ビル 電話：03-6739-3111(代表)
WEBサイト	http://www.seiko.co.jp

役員 (2013年6月27日現在)

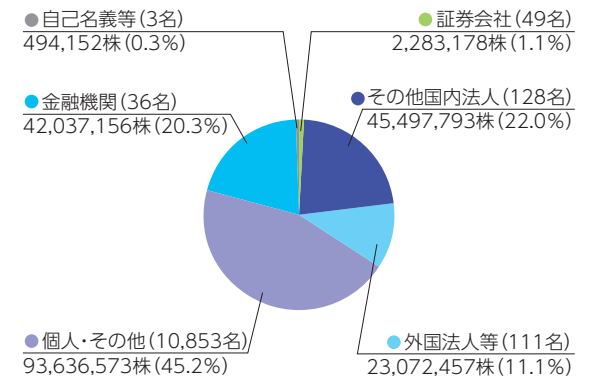
代表取締役会長 兼 グループCEO	服部 真二
代表取締役社長	中村 吉伸
常務取締役	石井 俊太郎
常務取締役	内藤 昭男
取締役	梅本 宏彦
取締役	高橋 修司
取締役	大熊 右泰
取締役	村上 斉
取締役	鎌田 國雄
取締役	土居 聡
取締役	原田 明夫
常勤監査役	鈴木 政利
常勤監査役	三上 誠一
監査役	森田 富治郎
監査役	山内 悦嗣
監査役	青木 芳郎

■ 株式情報

株式の状況

発行可能株式総数	746,000,000株
発行済株式の総数	207,021,309株
株主数	11,180名

株式所有者別の状況



※自己名義等は、自己名義株式(236,743株)および当社関係会社が所有する株式です。

株主メモ

証券コード	8050
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
決算基準日	3月31日
期末配当金の基準日	3月31日 ※中間配当を行う場合は、9月30日が確定日となります。
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵送物送付先 お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-288-324(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告 ただし、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。

■ 主な国内連結子会社

セイコーウオッチ株式会社

セイコークロック株式会社

セイコーソリューションズ株式会社
(2013年4月1日営業開始)

セイコーインスツル株式会社

セイコーオプティカルプロダクツ株式会社

セイコーネクステージ株式会社
(2013年7月1日営業開始予定)

セイコープレジジョン株式会社

株式会社 和光

セイコーNPC株式会社

セイコータイムシステム株式会社

■ グローバルネットワーク (当社を含む連結子会社数)



セイコーホールディングス株式会社

〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号

電話 03-6739-3111 (代表)

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

